布教(1549年～)

日本へのキリスト教の伝来

聖フランシスコ・ザビエル像(神戸市立博物館蔵)

日本殉教聖庫「大村純忠の図」(長崎歴史文化博物館蔵)

1548年、マラッカ（現在のフィリピン）において、ローマ法王によって宣教師として派遣されていたイエズス会の司祭フランシスコ・ザビエルは、イエズス会の二人のスペイン人と共に日本に向かいました。

1549年、ザビエルは九州の鹿児島に到着しましたが、布教はあまり進みませんでした。ただし、ポルトガルからの商人がすでに滞在していた長崎の平戸では、比較的良い成果を上げることができました。

ザビエルが去ってから二年後、イエズス会からの増援が九州に訪れ、4000人あまりの日本人を改宗させました。キリシタン大名の台頭は、この地域の権力者の洗礼によって始まりました。そのうちの一人が大村純忠です。彼は日本初のキリシタン大名でした。彼らは、ローマ・カトリックの教えや習慣に興味を示していたと同時に、中国の絹やヨーロッパの武器などの、日本とポルトガルの貿易に置ける、イエズス会との宗教的な結びつきの重要性を理解していました。